

群馬県議会 リベラル群馬

後藤かつみ

県議会だより

vol.7

[発行]

リベラル群馬

後藤かつみ事務所

住所 高崎市八幡町800-24

TEL&FAX 027-343-1393

e-mail ccrgoto@yahoo.co.jp

HomePage http://www.g-kenshoku.jp/goto/



12月2日に平成19年度決算が承認されました。依然として全国的にトップ水準の健全さを保っているものの、

その勢いに「陰り」を見せていることは否めません。昨年から続く世界的な景気低迷を受け税収

平成19年度決算審査が承認

県民の「真の声」の反映を目指す

リベラル群馬が次年度予算要望

は伸び悩み、基金の取り崩しにより財源の穴埋めをした結果、積立金残高は123億円も減少しました。

また、三位一体改革による地方交付税等の減少により、県が自由に使える財源が大幅に減少したため、経常収支比率が100%に迫り、「ゆとり」が殆どなくなりつつあります。

リベラル群馬が予算要望

このような厳しい県財政を踏まえつつ、12月2日にリベラル群馬は次年度予算要望書を大澤知事に対して提出。

既に、与党サイドは、経済危機を口実に「景気対策」公共事業拡大による放漫財政」路線

への転換を知事に求めています。リベラル群馬の予算要望は、このような与党の主張とは一線を画しています。

あくまで財政規律は堅持する。その上で、苦境に立つ地場企業やサラリーマンを緊急的

主な財政指標の状況

○将来負担比率

(県債残高や退職引当金などによる将来の財政負担を表す指標)

202.2% (全国9位)

○実質公債費比率

(県債の返済による財政負担の度合いを表す指標)

9.9% (全国3位)

○プライマリーバランス

(黒字幅が大きいほど、借金に頼らない健全な財政運営を行っていることを示す)

299億円の黒字 (72億円黒字幅縮小)

○基金(財政調整基金・減債基金)残高

(将来の不測の事態等に備えた貯金)

340億円 (123億円減)

○経常収支比率

(財政に「ゆとり」があることを示す指標。低いほど良い)

97.9% (5.6%上昇、ほぼ全国並み)

次年度予算に向けた主な要望項目

- 効率的な事業実施による健全財政の堅持
- 地場中小企業の資金繰り対策強化
- 若者・中高年の雇用対策強化
- 太陽光など自然エネルギーの積極推進による「地球にやさしい群馬県」の確立
- 温暖化防止の観点からコンビニなどの24時間営業の見直しを進める
- 救急医療(産婦人科等)の確立、医師等の確保
- 少人数学級の推進
- 県産農畜産物の地産地消と首都圏への販路拡大

県民の「真の声」反映に全力

リベラル群馬の予算要望は、連合群馬との協力で行っている、県民1万人を対象にした「県民意識調査」をベースに作成しています。政策調査でこれだけ広く県民の声を聞くアンケートは類を見ません。これに、9名の議員が地域を歩く中で得た視点を加え、限りなく県民の「真の声」を

反映した内容となるよう努力しました。12月議会においても、地場中小企業の資金繰り緊急対策として、制度融資額が250億円拡大され、反映されつつ項目もありませんが、次年度予算への反映に向けて、9名が一致団結して不断に取り組んでいく方針です。